

ツアーバス増加に伴う観光地周辺への影響に対する改善案

史 中超研究室

0931171 林 敬裕

1. 研究の背景と目的

近年、ツアーバスを利用した観光客が増加しており、都内などの観光地に立ち寄った際に、ツアーバスを度々目にする事が多くなっている(図1を参照)。特に最近では、2012年に東京都墨田区に「東京スカイツリー」が開設されたことにより、その周辺に訪れる人々が急増している。また、スカイツリー周辺にはツアーバスも多くなってきており、ツアーバスによる路上駐車などの問題が目立っており、円滑な交通を妨害するようなことも多くなっている。

以上のことを踏まえ、本研究では、ツアーバス増加の原因を分析し、ツアーバス増加に伴う観光地周辺への影響の現状と問題点を把握したうえで、それぞれの問題点にたいして改善策を提案する。

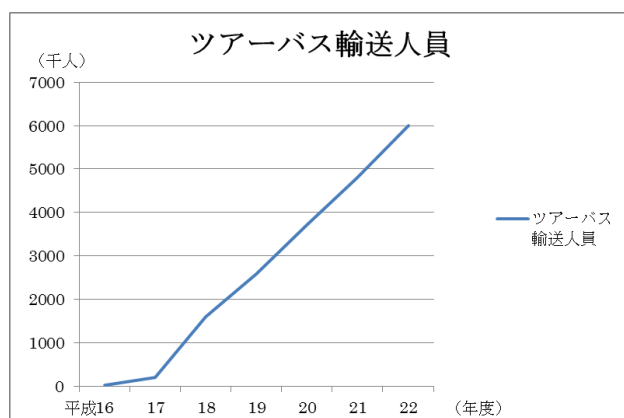


図1 ツアーバスの輸送人員の推移(文献[1])

2. ツアーバスの増加に伴う原因と問題

・原因

(1) 規制緩和

規制緩和とは、平成11年5月に道路運送法が改

正(平成12年2月施行)され、貸切バス事業は、免許制から、輸送の安全、事業の適切性等を確保する観点から定めた一定の基準に適合していれば事業への参入を認める許可制に移行され、需給調整規制が廃止されたことである。

また、運賃が認可制から届出制へと移行(価格規制の緩和)し、貸切バス事業の自由化により参入がしやすくなり、新規参入事業者が急増した。急激に貸切バス事業者が増加し、受注競争の激化や契約先からの値引き要求などにより、貸切バスの利用料が安くなっている。その結果、貸切バス(ツアーバスを含む)の利用者が大幅に増えている。

(2) 不況の影響

近年、ツアーバスの輸送人員が増加している背景には日本経済が不景気との関連性も高い。デフレなど悪い経済状況からなかなか脱出できない状況のなかでは、観光者は飛行機や新幹線よりも激安のツアーバスを選択し利用することが多くなっている。

(3) 新しい観光スポット設立による影響

新しい観光地に人が集中し必然とツアーバスも観光地周辺に増加傾向にある。

・問題

(1) 路上駐車

・路上駐車により、後続の自動車の通行の妨げとなることで渋滞が発生しやすく、追突事故の発生や緊急車両の活動を妨げることに繋がる。

(2) 運転手の長時間労働

大都市中心地に大型バス専用駐車場が少ないため、駐車できないツアーバスが一部地域で多発している。駐車場が満車の場合、他の駐車場を探さなくてはならないため、運転手は時間外の労働を強いられ、結果として運転手の休憩時間が減少し、長時間疲労運転となってしまうケースが増えている。その結果、居眠り運転事故の誘発につながる可能性が高くなっている。

(3) 渋滞と環境問題

渋滞による移動時間の長期化は、燃費の悪化によりCO₂（地球温暖化の最大の原因とされる物質）の排出量を増加させるほか、NO_x（光化学スモッグや酸性雨などを引き起こす大気汚染原因物質）等の大気汚染物質の排出量増加にもつながる。

3. 改善策

(1) 路上駐車・渋滞に対する改善策

・ツアーバス用の乗降エリアの設置

ツアーバスの乗降の際に起こる路上駐車、渋滞を減少させるためにツアーバス用の乗降エリアを観光地周辺の運行状態が少ない車道の一部に設置することを提案する。ツアーバスを一箇所に集め、交通の流れを円滑にすることにより、渋滞による環境問題も改善される。また、乗降エリアがあることで、次のツアーバスが利用するため、乗客の降車後にそのまま乗客の帰りを待つようなこともできなくなり、路上駐車も減少につながる。

・ツアーバスの駐車場の予約義務化

ツアーバスの運行の際、駐車場の予約を義務化する。ツアーバスは路上駐車することなく、予約していた駐車場に駐車可能になる。よって、ツアーバスの路上駐車が減少できると思われる。

・駐車禁止区域の設置

観光地、または、新しい観光地設立の際に、その周辺の運行状態の激しい道路に駐車禁止区域を設置する。観光地周辺での路上駐車も減少、渋滞の緩和が期待できる。

(2) 運転手・渋滞に対しての改善策

・パークアンドライドの推進

パークアンドライドとは、自動車・原付・軽

車両を郊外の公共交通機関の乗降所（鉄道駅やバス停留所など）に設けた駐車場に停車させ、そこから鉄道や路線バスなどの公共交通機関に乗り換え、目的地に行く方法である。

この方法をツアーバスに適用することで、観光地におけるツアーバスの渋滞の緩和、排気ガスによる大気汚染の軽減、二酸化炭素排出量の削減が期待される。

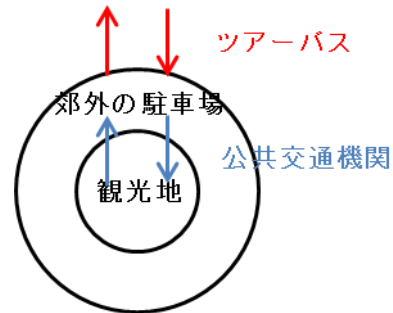


図2 運転手・渋滞に対しての改善策イメージ図

4. まとめ

本研究では、ツアーバス増加の原因を分析し、ツアーバス増加に伴う観光地周辺への影響の現状と問題点を把握したうえで、それぞれの問題点に対して改善策を提案した。

観光地へのツアーバス増加は経済的にはプラス面が大きいが、路上駐車や大気汚染などさまざまな悪影響を及ぼしているのも事実である。そのため、ツアーバスの観光地への滞在時間をなくす、もしくは少なくすることが改善策の出発点だと思われる。

本研究ではいくつかの改善策を提案したが、根本的に問題を解決するには、政府、地方自治体、ツアーバス運営団体が一体になって、法律の改正を含む総合的な対策案を探る必要があると思われる。

主要参考文献

- [1] 高速ツアーバス問題について 山越伸浩
http://www.sangiin.go.jp/japanese/annai/chousa/rippou_u_chousa/backnumber/2012pdf/20120904073.pdf
- [2] 貸切バスに関する安全等対策検討会報告
http://www.mlit.go.jp/kisha/kisha07/09/091019_2_.html